

■■■ 「在日外国人高齢者支援」報告会開催 ■■■

2月22日（土）、ピフレホール会議室で“「在日外国人高齢者支援」報告会”があり、約30名の参加者がありました。内容は、①「オーストラリアのマイノリティ高齢者支援」視察（在日ベトナム人研究者 川越道子）、②「中国残留邦人帰国者の生活課題～K F C新長田帰国者交流会実践」（ハナの会管理者 呼和徳力根）、③「在日ベトナム高齢者の生活課題調査及び支援事業」（K F C ハティ タン ガ）、④「小規模多機能型居宅介護“ハナ”の実践」（ハナ施設長 山根香代子）の4つの報告です。

1. 「オーストラリアのマイノリティ高齢者支援」視察報告

統計では日本全体で在日マイノリティである外国人（登録している人）は、1.62%の約208万人、長田区では7%の約7100人で韓国人、ベトナム人、中国人の順となっています。マイノリティ高齢者の課題としては、経済状況、福祉に関する情報、言葉・文化・習慣の違いなどの問題があります。

移民を受け入れているオーストラリアにおけるマイノリティ高齢者支援について、施設、対応の状況などの紹介がありました。多くの施設が、中国人コミュニティの中でスタートし、インドシナ難民など他の国の人も受け入れてきたという経緯があります。オーストラリアでは個人のニーズに沿ったケアができる制度への改正、その人の文化・背景へ配慮したケア、在宅中心のケアというものが効果をあげている要因としています。

2. 「中国残留邦人帰国者の生活課題～K F C新長田帰国者交流会実践」報告

KFCでは、2010年に在日外国人高齢者の生活課題調査を行い、2011年からの神戸市立地域人材支援センターでの太極拳・歌・踊り・ゲーム等を楽しむ交流会を経て、一世及び二世が中心となり参加人数を減少させることなく交流の場として定着させると同時に、地域の祭り・神戸まつり等で自分たちの自己表現を行うことができるまでの経緯の報告がありました。課題として、費用の問題、日本人ボランティアの役割の難しさスタッフの不足、当事者サイドの運営担い手としての認識の問題などがあるとの説明もありました。

3. 「在日ベトナム高齢者の生活課題調査及び支援事業」報告

在日ベトナム人高齢者は介護サービスに対していいイメージを持っておらず、利用をずっと拒否しているという現状から、2013年12月～2014年3月にかけて“在日ベトナム人高齢者の外出支援”事業として、“外出”をテーマに、デイサービスに3回通うこと、他国の高齢者との交流会に参加すること、社会見学をすることを実施しています。デイサービスには延べ約40名が参加し、脳・頭の体操、ベトナムのゲームや食事、ベトナム人介護職員などの対応で満足してもらいました。他国の高齢者との交流では、中国帰国者新長田交流会に合流しお互いの考えを分かち合えたようです。外出機会を提供するための社会見学では、日頃家に引きこもりがちな高齢者は小旅行ができるとわくわくしているようです。これらのことが、今後の介護サービスの利用希望につながればと期待しています。

4. 「小規模多機能型居宅介護“ハナ”の実践」報告

2013年10月よりスタートし、現在10名の利用者で、構成は中国残留邦人帰国者5名、日本人2

名、在日コリアン2名、中国／ベトナム人1名となっています。小規模多機能のサービスに伴う課題に加えて多文化共生を掲げた“ハナ”独自の課題が上乘せされる問題があります。運営の問題点としては、それぞれの人々が『心地よい空間』と感じているか、相手のルーツ・歴史・文化を知り、理解しているか、人権意識が身に付いているかなどがある。手さぐりではありますが多文化共生を夢物語のまま終わらせないために頑張っていることがうかがえました。（ニュース係 川淵 啓司）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆シンポジウム「神戸の日本語教室の連携を考える」開催報告

2月15日、神戸市国際協力交流センター会議室で「神戸の日本語教室の連携を考える」というシンポジウムを行いました。第一部は「神戸市国際化大綱」を神戸市市長室国際部長松田高明氏、「学習者オートノミー」の話をお大阪大学大学院教授の青木直子氏、「KFCの今年度の取組」として日本語コーディネーターの福田淑慧が発表しました。限られた時間の中、盛りだくさんの内容でしたが、行政、研究者、現場（NPO）のそれぞれの立場の認識や役割を考えるきっかけになりました。

第二部は「どうやって日本語を習得するか、私の方法。私が学びたい日本語とは。」と題して、中国・タイ・モルドバ・アルゼンチン出身の日本語学習中の方にパネリストとして登場していただき、日本語学習にどのように取り組んできたか、入国後すぐでことばがわからない時の話や今後の抱負、行政や支援者への要望など多方面の内容を話してもらいました。

日本へ行くことが決まっても他の準備などが忙しく、日本語の学習までは十分できないこと、自分たちの母語にはない語、特に助詞などは自習が難しいことということでした。来てすぐの頃は、何もできない人間になってしまったような不安や慣れない土地での緊張感やストレスがあります。文字がわからないので降りる駅を間違えないように駅の数を数えていた、今でもトイレに入ったらフラッシュボタンを間違えないように気をつける、幼稚園のお母さん同士で「はい」と頷いていたら「うん」でいいよと言われ、使い分けがまだ難しいという話など、実際の経験に基づいた率直な話はなかなか聞く機会がなく、好評でした。

「お金があったら日本語学校へ行きますか。」という質問には、皆さん行くという答えでした。チャンスがあれば大学へ行って勉強したいという声も出ました。行かないのは時間がないというのが共通の理由です。生活者としての外国人の日本語学習を考えると、勉強だけに時間を費やせない事情をくみ取らなければならないということがわかりました。

印象に残ったのは病院のことで、漢字ばかりだからとても困るということでした。緊急の場合も多いので通訳役の人と行けるとは限らないし、せめて受付（reception）や案内

（information）は英語の表記があってもいいのではないかという要望も出ました。切実なことなので確かにその通りだと思います。

参加者のアンケートからは「読み書きも大事ですが、日常的な日本語会話を学ぶことも望んでいるように感じられ、日常会話を学ぶプログラムもあればいいと思いました。」という意見がありました。

第三部は情報交換と横のつながりを目的に交流会を行いました。3時間ほど話を聞きっぱなしだったせいか、主催者側がアレンジする必要もなく、あちこちで話が盛り上がりました。この交流会のために「アレーシュキ（日本語訳：胡桃）」というウクライナの甘いお菓子を、KFCで学習しているマラカ・ナタリアさんから作り方を教わり準備しました。

日本語教室の連携を強めることによって学習者の利便を図る、学習効率を上げるという大きな目標には至らない点が多かったですが、日本語学習者を支える人、応援する人が多くいるという

こと、その輪をつなげていくことの第一歩としていいシンポジウムになったのではないかと思います。（奥 優伽子）

■■■ KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆就学前の子どもの支援事業～プレスクールを実施して～

2014年1月からこれから小学校に就学する外国にルーツをもつ子どもたちを対象とした、KFCの就学前教育支援「こうべプレスクール」を実施しています。

参加者の募集に際しては、日本語のほかに、中国語、ベトナム語、英語、韓国朝鮮語の多言語でチラシを作成し、参加を呼びかけました。今年度のプレスクールには、新長田のKFC教室に5名と、神戸東の賀川記念館のはいず教室に2名の計7名の参加がありました。参加した子どものルーツは、ベトナム、中国、ペルー、アフガニスタン、パキスタンなど、さまざまでした。

全員が日本の保育所や幼稚園に通っていることもあり、日本語でのコミュニケーションについては、大きな課題はないものの、ひらがなやカタカナの読み書きに関しては、初めて体験する子どもが多く、みな積極的に学習に参加していました。

KFCのプレスクール事業は、「ちょっぴりお先に“1年生”を体験しよう！」というスローガンを掲げています。毎回の学習時間も小学校の授業時間と同じく45分間に設定しています。あいさつから始まり、日付の確認、ことばカード、文字の学習、絵本の時間など、子どもたちが飽きないように色々な活動を取り入れて、メリハリをつけています。盛りだくさんの内容ですが、45分間という時間の区切りを体験することで、保育所、幼稚園生活にはない「小学校の時間感覚」に体を馴染ませていくことがねらいです。ファイルにプリントをとじたり、保護者あてのお手紙をていねいに折りたたんで持って帰ったり、と学習面だけでなく学校生活の面でも“1年生”を体験できるように内容を取り入れています。

また今年度からは定期的に宿題を出すことで、家庭学習の習慣化を図りました。保護者の方にも宿題をチェックすることで、プレスクールでの学習内容を確認していただく機会となっているようです。

スタッフ側も、愛知県の蟹江町プレスクール事業を参観し、ネットワークづくりと、さらなるプレスクール事業の発展にむけて、情報収集を行っています。関係機関との連携を深めることによって、外国にルーツをもつ子どもたちの就学前教育支援の意義をアピールし、支援活動の充実を目指していきたいと考えています。（藪田 直子）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆新春交流会

KFC主催による、中国残留邦人帰国者及びベトナム人高齢者のための新春交流会が2014年2月4日（火）長田の地域人材支援センターで開催されました。神戸市を中心に兵庫県内各地から約50の方が参加されました。中国の春節及びベトナムのテト（正月）は日本の旧正月に当たり、今年は1月31日が元旦でした。

中国北部では大晦日の年越しには餃子を食べる習慣が昔からあります。餃子は発音や形状から子宝、財運、団欒につながると言われています。仲間たちで餃子をたくさん作り食べられました。日本の餃子と異なり皮の厚い茹でた水餃子です。

ベトナムの正月料理としてはチマキ、アゲ春巻、豚のハムが振舞われ故郷の味を楽しめました。ベトナム南部のチマキ「バイン・テト」はもち米と豚肉と緑豆で作られ、なかなかの美味です。

金宣吉理事長の新春のあいさつの後、爆竹の代わりにクラッカーを鳴らし、正月ムードを高め、乾杯をして皆さんで親睦を深め正月を祝いました。

イベントとしては支援者の堀田さんによる手品、中国残留法人帰国者による中国伝統のコマ回し、ビンゴゲームなどが披露されました。

日本語の不自由な高齢者の多い皆さんですが故国、子ども時代を思い出し和気あいあいと楽しい正月のひと時を過ごすことが出来た事でしょう。

金理事長を初めとしてスタッフ及びボランティアの皆さんによる共生とコスモポリタンの気持ちが伝わってきた素晴らしい新春交流会でした。

(ニュース係 吉村 晴夫)

■■■ ハナの会 ■■■

◆ベトナム人高齢者交流会から感じること

NHK歳末たすけあい義援金の助成金で、2013年12月～2014年3月まで「在日ベトナム人高齢者の外出支援」の事業を実施しています。内容は主に「外出」ということで、デイサービスに3回通うこと、他国の高齢者との交流会に参加することや社会見学です。

介護制度が開始されて14年も経ちましたが、在日ベトナム人コミュニティに浸透しませんでした。介護サービスにあまりいいイメージを持たず、利用をずっと拒否し続けています。適切な対応を受けないことで介護度が進み、悪化するケースがありました。通所介護を体験することで、介護サービスがどんなものなのか知ってもらい、デイサービスに通うことで、現在の健康を維持し続けられ、さらには予防介護にも繋がることを分かってもらいたいからです。

デイサービスでの脳の体操・体の体操（ボールキャッチやボール蹴り・輪回しや輪投げ・食事前の口体操など）は彼らにとって初体験なので、大変新鮮で、楽しかったようです。見た目は遊びのようですが、一つ一つの動作の意味や効果を説明すると、さらに関心が高まりました。ベトナムゲームの遊びでは、幼い時に遊んだことがあって、懐かしく興奮しながら大変盛り上がりました。昼食にベトナム料理を提供したことやベトナム人の介護職員がいることで安心して過ごしてもらうことができました。みな大変満足したようです。この体験は毎月開き、3回で延べ31名の参加者がありました。これがきっかけで興味を持ってもらい、今後の介護サービスの利用希望につながるこれがこの事業の成果だと思えます。

他の国の高齢者との交流では、KFC中国帰国者新長田交流会が毎週火曜日に活動していますので、そこにベトナム人高齢者も合流してもらいました。2回で延べ20名の参加でした。ベトナム人高齢者は違う国の高齢者と交流する機会があまりありません。今回の交流会を通して、お互いの存在を知ることができましたし、同じ高齢者で異国に生活をしなければならない者同士の分かち合える場ができたのではないかと思います。

社会見学は家に引きこもりがちのベトナム人高齢者に外出機会を提供することで、気分転換ができることと、日本社会・日本の仕組みを知ることによって視界を広がり、周りのことにもっと興味を持ち、老後生活を楽しめればということが狙いです。3月14日（金）に明石の2つの工場見学と神戸環境未来館に行くことになっています。「小旅行ができる」と、みなはワクワクして待ち遠しいようです。

この事業は短期間ではありますが、私は大きな期待を託しています。それは今後在日ベトナム人コミュニティに介護サービスをどう利用し、広めていくのかのカギを握っているからです。どうなるか予測できませんが、上手くいくことを願っています。

(ハティタンガ)

◆在日ベトナム人高齢者支援事業

去年12月から2月までにかけて3回程デイサービス・ハナの会にてベトナム人高齢者の方々を招いて交流会が行われました。

現在、デイサービスセンターハナの会のご利用者様は韓国・中国・日本そしてベトナムの方が2名いらっしゃいます。国際的豊かでどこにもない多文化なデイサービスです。

神戸在住のベトナム人高齢者の数はまだ少なく60代の方が多いです。ですから自立度が高く身の回りの事はご自分で行うことができます。素敵な事に家族の絆が強く親と一緒に暮らし世話をする家庭も少なくありません。何かあった時は子どもが駆けつけてくれる。相談にのってくれる。支えてくれるなどなど良いところがたくさんあります。生活面では安心して寄り添う場所があります。ただ言葉の壁がどうしても避けられません。そうすると病気の時やちょっとしたお出かけ時に交通手段が必要となると不安点が生じてしまいます。日本語が困難だと外出でも行動範囲が限られがちです。

日本社会では福祉面が充実しており支援の窓口がたくさんあります。高齢になってだんだんと人の手が必要になった時は本人に合った支援制度があります。反対にベトナムの高齢者は言葉の壁の影響で生活面に役立つ情報が十分に得られません。万一、老後手助けが必要になると困難な問題点が多く発生すると考えられます。

交流会の中で私たちヘルパーが通訳に入ってたくさん相談を受けました。いろいろな福祉施設を利用するにはどういった方が対象になるのか。一人暮らしが困難になった時どうすれば良いのか。訪問介護が必要になった時どこに相談できるのか。介護保険申請の手続き方法等々の相談がありました。相談を受けて考えさせられた事がいくつもありました。気軽に相談にのらせてもらい、介護施設を利用できた方もいれば全く情報を知らなく困っている人がいるという実態があります。

交流会を通してお互いが気づいた事がとても大事です。私たちがもっと良い情報を届けてあげるべきです。誰もが平等に安心して本来あるべき“当たり前”が持てるように窓口や施設が発展して動いていく姿勢を持つべきだと今回の交流会から学ばせて頂きました。（トラン ティ ティエン アン）

■■■ グループホームハナ ■■■

◆大衆演劇鑑賞

2014年2月21日（金）に、グループホームハナの利用者様12名と小規模多機能の利用者様1名で『大衆演劇 剣戟はる駒座』を鑑賞しました。

皆さん、久しぶりの外出で何となくお顔の表情も微笑んで見えました。出発準備も問題なく出掛けることが出来ました。劇場に入り、席に着くと早速お弁当タイムになりました。メニューは、ちらし寿司や細巻きや握り寿司が入ったお弁当に皆さん喜んで食べていました。中には、帰りの車に酔いそうだと言われ、召し上がらなかつた方がいましたので、少し申し訳なく感じました。

歌やお芝居が始まると、一緒に手拍子をしたりしてくれました。あまりに、はしゃいでいる方もいらしたので、少し心配し、ドキドキする場面もありました。

3時間程の公演内容でしたが、あっという間に時間も過ぎ、楽しんで頂けた様子で良かったと思いました。トラブルや事故もなく、楽しい気分で帰って来ることが出来、良かったとスタッフ一同ほっとしました。

また、次の外出も細かい点に注意しながら、皆さんに喜んでもらえる企画を考えたいと思って

います。

(2Fフロアリーダー 金松 恵)

■■■ 今後の予定 ■■■

■ 中国残留邦人帰国者交流会の遠足

3月25日(火) コスモスの会学習発表会見学